

近藤さんからは、ハヤブサが定着したことによって、チュウシャクシギや数の少ないコアジサシが餌となっていることや、ハヤブサがたぐさンドバトを食べて、ドバトの数が減ると期待していたのに、そのドバトがほとんど食べられていないこと。ハヤブサの保護を行うことで、地域にすむ野鳥への影響が出ていることなどについて問題提起がありました。

松村さんがまとめとして、都市に住むハヤブサを保護する意義として、普通は簡単には見ることのできないハヤブサの生態などをここでは多くの方に紹介することが可能なことから、ハヤブサが生きた鳥を捕らえて食べることなど、自然界の厳しい「おきて」を身近に感じてもらえる、ハヤブサの素晴らしさや生態系の頂点に立つ猛禽類のくらせる環境を保護することの重要性を普及・啓発できることをあげられました。

また他の生き物との共存をどう考えていくのか、一人ひとりの自然観というものを培ううえでも、都市部のハヤブサを見続けることの意義があるのではないかとこの言葉で締めくくっていただきました。

最後に、会場からの質疑応答や、来年に向けての泉大津のハヤブサの課題などについて熱心な議論が交わされ、当初予定の終了時刻の午後5時を30分ほど超過することとなりました。



▲パネルディスカッションの様子

■参加者の声（会場でのアンケート結果から）

3連休の中日にもかかわらず、70名を超える参加があり、シンポジウムは大変盛況でした。

会場でのアンケートには20名の方の協力がありました。

主な意見や感想

○ 基調講演について

- ・アカショウビンやブッポウソウ、時にはアマサギまで食すというのには驚かされた。
- ・ハヤブサへの愛情の深さと知識の豊富さに感激した。
- ・ハヤブサの生態についてよく理解できました。
- ・繁殖に影響を与える要因が参考になった。

○ 報告 2006年のまとめについて

- ・画像の解析が大変だと思いますが、詳細な生態が得られると期待しています。
- ・事例報告全て参考になった。

○ 特別講演について

- ・大阪の猛禽類の分布、繁殖状況が参考になった。

○ パネルディスカッションについて

- ・ホテルの方の意見が聞いてよかったです。色々な苦労があるのだなあと思いました。

○ その他の意見

- ・是非来年もやって欲しい。
- ・時間を守っていただきたい。

予定時間内にシンポジウムを終了できなかったため、途中退室された方もおられ、お詫び申し上げます。